

近森オルソリハビリテーション病院 医療相談室

室長 川澤 あゆみ

○医療相談室体制について

2024 年は常勤ソーシャルワーカー（以下 SW）1 名＋非常勤 SW1 名の体制で業務を行った。

○業務について

医療相談室では例年同様に入院ケースを中心に業務を行った。

2024 年に当院へ入院してきた患者は 651 名（2023 年 563 名）、そのうち SW の介入が必要であった患者は 275 名・42.2%（2023 年 206 名・36.7%）であった。

2024 年の相談件数（延べ人数）は、入院関連 2678 件、外来関連・その他 263 件であった。相談対象は患者本人 1365 件、家族 770 件、関係機関 1883 件、その他 2 件、対応方法は面接 1684 件、電話 2057 件、訪問・その他 93 件であった。

SW が介入した 275 名の退院先は、自宅退院 201 名、施設入所 38 名（うち 12 名は介護老人保健施設へ入所）、医療機関への転院 36 名（うち 25 名は急性期病院へ転院）であった。また、275 名のうち要支援・要介護認定をもつ患者は 210 名、要介護認定申請中に退院した患者は 42 名、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター等と連携して退院調整をおこなった患者は 179 名、サービス調整が必要であった患者は 164 名であった。

2023 年 11 月に回復期リハビリテーション病棟が地域包括ケア病棟へ転換された影響か、2024 年は平均在院日数が短縮され、入院患者は前年比 15.6%増（88 名増加）であった。SW が介入したケースも前年比 33.5%増（69 名増加）であったが、これには病床転換による内科系患者の増加が影響したと思われる（図 1）。また、SW 介入ケースの増加により退院前担当者会の開催件数も大きく伸びている（図 2）。

病床転換から 1 年以上経過した 2025 年は、SW 介入ケースの伸びは緩やかになるかもしれないが、少ない人員で業務をおこなうにあたり、引き続き業務の絞り込みや他職種・地域との協働に注力し、必要なところへソーシャルワーク支援が届くよう取り組んでいきたい。

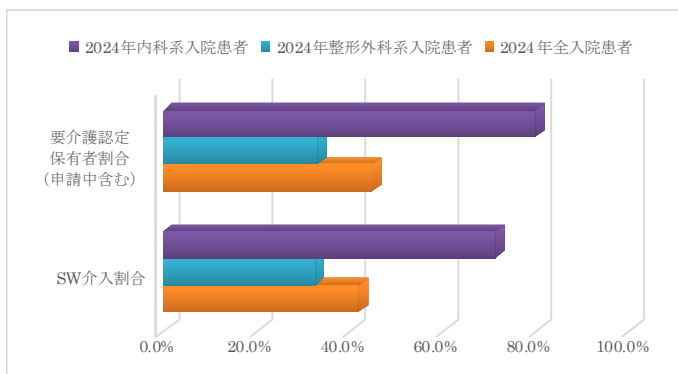


図 1. 全入院患者と内科系入院患者

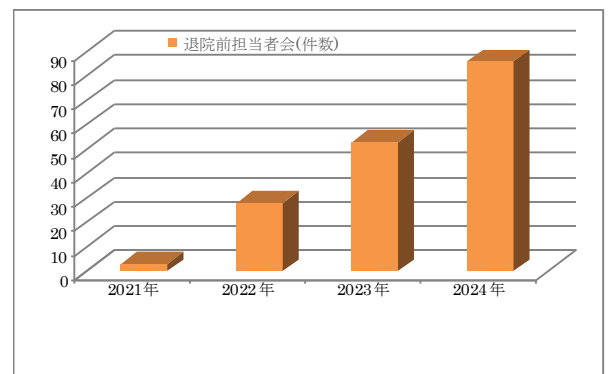


図 2. 退院前担当者会